

ピッコリー視察報告書

おはなしレストランライブラリー司書 内田絢子

1. 日 時：平成22年2月17日
2. 視察先：京都造形芸術大学 芸術文化センターピッコリー
3. 対 応：専任スタッフ 大橋慈様
4. 蔵書冊数：約 17,000 冊

5. 質問内容

絵本の選定・購入について

①絵本の選定基準について

明文化はしていないが、長く読みつがれていくと思われる絵本を選定している。定評のある作家の絵本は揃えるようにしている。また、芸術大学であることも考え、アート系の要素が含まれる絵本（芸術家が手がけたもの、芸術をテーマにしたものなど）は意識的に購入している。

②購入の際、見計らい等はどのようにしているのか

書店に頼んで、新刊を持ってきてもらい、実物を読んで選んでいる。事前に新刊案内に目を通して、候補をしぼって持ってきてもらっている。ピッコリーのスタッフで選書会議を行い、購入している。

③利用者から本の購入のリクエストは受けているのか

スタッフが実際に見て、良いと思う本を入れるようにしているため、リクエストは受けていない。しかし、子どもたちが館内で(子ども同士や、保護者との会話の中で)読みたいと言っていた本は、チェックするようにしている。

④複本は入れているのか

複本は基本的には入っていない。古くなった際、壊れた際、または紛失した際に、改めて購入している。

絵本の配架について

①全体の蔵書のうち、何割開架しているのか

9割開架している。閉架の棚は、開架の棚の上(扉付き)。

②絵本の配架基準

画家の名前で50音順。その中で、日本の画家の絵本と世界の画家の絵本を分ける。赤ちゃん向け絵本は別置。毎月、画家を1～2人程度ピックアップし、特集として、その画家の絵本を平置きの棚に並べている。



ピッコリー全体図

読み物は、昔話・詩を別置している。読み物の中で、物語と知識の本は分けている。また、物語は小学4年生までと小学4年生以上向けに分けて配架している。

新刊コーナー（大人向け雑誌も有）



絵本架（差し込み）



利用・貸出について

① 1回の利用での貸出冊数(限度冊数)及び期間について

1人5冊まで、2週間貸出をしている。

②カードを作る際、身分証の提示は求めているのか

身分証の提示は求めている。子どもが一人でも申し込めるよう、自分の名前・住所が書ければ誰でも作ることができる。ピッコリーと利用者との信頼関係で成り立っている。問題があれば別の方法を考えるが、今のところトラブルはないので、この方法を続けている。

③紙芝居の貸出はしているのか

一般の方への貸出はしていない。おはなし会や、その他のイベントで利用するために入れている。こども芸術大学(京都造形芸術大学内にある、保育園や幼稚園に相当する施設)の先生から要望があった場合は貸出をする。

④予約は受けているのか

予約は基本的に受けていない。延長のシステムはないが、同じ本を続けて再度借りることは可能。

読み聞かせ等のイベントについて

①おはなし会はどのくらいのペースで開催しているのか

ピッコリースタッフやボランティアによるおはなし会は、週2回(木曜日と日曜日)。

京都おはなしを語る会の方による素話を中心としたおはなし会「おはなしクラブプー横町」や、京都科学読み物研究会の方によるブックトークも行っている。両方とも月1回。素話やブックトークは、小さい子には少し難しいが、普段おはなし会に来ないような男の子が、素話やブックトークのときには来てくれることもある。

また、乳幼児や保護者を対象とした「トットクラブ」も開催している。

おはなし会の様子は HP に掲載し、おはなし会に来ることができなかった人も楽しんで

もらえるように工夫している。また、ピッコリーでは絵本の朗読のことを「読み聞かせ」ではなく「読み語り」と呼んでいる。

②おはなし会はボランティアの方がすることもあるのか

ボランティアの方がすることもある。ボランティア登録(ピッコリーネットワーク)をして、講習会に参加してもらおう。まずは実際におはなし会を見学してもらい、次にスタッフの補助(一緒に読み語りをする)、慣れてきたら一人で読み語りをしてもらう。人によっては、読み語りの経験がある人もいるので、その場合は臨機応変に対応する。おはなし会以外のイベントでも同様のやり方をする。

③おはなし会以外のイベントはどのようなものがあるのか

工作会や工作会ワークショップ、保護者を対象とした「本と手をつないで子育てしたい」がある。

工作会はピッコリースタッフやピッコリーネットワークの方が講師となって、身近にあるもので「作ってあそぼう」をテーマに工作をする。ピッコリーネットワークの方が企画から行うときもある(スタッフがやりかたや内容について指導する)。

「本と手をつないで子育てしたい」は、子どもと保護者が一緒に参加できるワークショップ。様々な講師を招いて講座を開き、講座の前か終了後に各回のテーマにあった絵本やおはなし、わらべうたを紹介する。内容の関係で、3～10歳の子どもの持つ保護者を対象としている。しかし、本当は0～2歳の子どもの持つ保護者からの「子どもと一緒に参加できるイベントをやってほしい」という声が一番多い。

また、映画上映会や、パソコンを使った情報検索・情報発信を体験する「パソコンであそぼう」も開催している。

その他

①司書業務(貸出等)のために、学生のアルバイトを入れることもあるのか

返本の配架はアルバイトを入れている。利用者からピッコリーのことについて質問されることもあるので、ピッコリーのことを良く知っている学生(ピッコリーネットワークに入っている学生)に頼んでいる。

②子ども用のパソコンを導入する上で、気をつけていることはあるか

子どもが、インターネットを使う際、間違った使い方をしないようにカウンターから常に気にかけている(子ども用パソコンはカウンターのすぐ横)。子ども同士の交流につながっている(子ども同士で使い方を教えあう、一緒に調べ物をする)ので、インターネットやお絵描きソフトは自由に使ってもらっているが、スタッフが目を離さないようにしている。

③おもちゃがたくさんあるが、おもちゃを置くのには何か理由があるのか

まだ字が読めない子どもでも館内で遊べるようにおもちゃを用意するようになった。全て、スタッフが見て選んでいる。木のおもちゃが多い。おはなし会的时候は、音の出るものは遠慮してもらっているが、普段は音の出るおもちゃも自由に使ってもらっている。ま

た、糊や色鉛筆、広告の裏紙を常備して、子どもたちがいつでも工作(簡単なもの)できるようにしている。

④読書記録カードとはどのようなものなのか

30冊で1枚埋まるようになっているカードで、3枚たまとピッコリーオリジナルのしおりをプレゼントしている。

6. 参考になった点やライブラリーに生かしていきたい点など

- ・0～2歳の子どもを持つ保護者からの、親子で一緒に参加できるイベントをしてほしいという声が想像以上に多いことが分かった。未就学児の保護者が、居場所や交流の場を求めているのではないかとのことだった。ライブラリーのイベントを企画する際に、そういったニーズに答えられるようなイベントも企画していきたい。
- ・0～2歳の子どもを持つ保護者からのニーズがあるということは、授乳室なども必要になるだろう。
- ・絵本購入の際、新刊本すべてに目を通すことは難しいので、見計らいをするならば、ピッコリーのように新刊案内を見て数を絞る必要があるだろう。また、リクエストを受けるかどうかは別にして、子どもたちの「こういう本が読みたい」という声を聞き逃さないようにしたい。
- ・ピッコリーは、カウンターからの死角が少なかった。できるだけ部屋全体に目が届くようにした方が良いだろう。
- ・今回の視察で、担当の大橋様が大変丁寧に対応していただいた。視察に行った17日は休館日だったが、おそらく、利用者の方への対応もかなり丁寧にされているのではないだろうか。そういった面でも、勉強になった。